

# 歴史**深**発見! タイムスコープ

日本遺産

薩摩の武士が生きた町  
～ 武家屋敷群「麓」を歩く～

武士たちの物語を  
見つけに行こう!



# 歴史深発見! タイムスコープ

日本遺産  
薩摩の武士が生きた町  
～ 武家屋敷群「麓」を歩く～

武士の時代にタイムスリップ!?  
歴史のウラ側に隠された物語を  
“深”発見する旅に出かけよう!

## 登場キャラクター紹介



歴史博士

### 未来から来た歴史博士

「麓」や「武家屋敷群」などの歴史を調べていて、タイムスコープという道具で、現代に存在する遺産の魅力を教えてくれる存在。博士と一緒に、歴史クイズにもチャレンジしてみよう!



ハヤトくん

### 好奇心旺盛な小学5年生

歴史は詳しくないけれど、歴史博士と一緒に、郷土に残っている「麓」や「武家屋敷群」を学んでいきます。各コーナーで感じた疑問に思う点や、理解が難しいポイントなどを、ハヤトくんとミナミちゃんと一緒に“深”発見していこう!



ミナミちゃん

## この冊子の使い方

### ● 歴史物語 案内コーナー

歴史に詳しくない人でも、ここを読めば基本的な歴史が学べるコーナーです。歴史マンガで、「麓」や「武家屋敷群」が生まれた背景の物語について詳しく説明しているの、まずはこのコーナーを読むことをおすすめします!



### ● 日本遺産 案内コーナー

日本遺産「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群麓を歩く～」に認定されている場所の魅力を紹介するコーナーです。実際に現地を訪れた際に役立つ、まち歩きマップ付で、「麓」の周遊にも便利です!



## スタンプラリーについて

それぞれの「麓」には、本冊子と連動したスタンプラリー専用のスタンプが設置されています。このスタンプを全部集めるとステキな景品がもらえます! スタンプを集めて、きみも「麓マスター」を目指そう!

◎スタンプが揃った際の連絡先  
TEL.099-286-5355  
(鹿児島県教育庁文化財課)まで



スタンプのイメージ  
※実際は異なる場合があります。



## もくじ

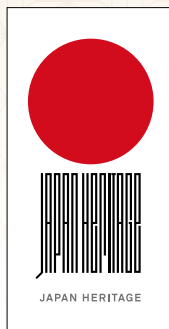
日本遺産ってなんだろう? .....	3
<b>“深”発見</b>	
①「麓」と関わりの深い「山城」の特徴 .....	5
②「外城制度」が出来た頃の島津氏 .....	7
③「外城制度」の発展と徳川幕府の一国一城令 .....	9
④「外城制度」の仕組み .....	11
⑤「外城制度」を支える拠点「郷」 .....	13
⑥「郷」の中心地「麓」の構造 .....	15
⑦「麓」を守った薩摩武士たち .....	17
⑧「外城制度」と明治維新 .....	19

### 【日本遺産】構成文化財紹介

私たちの身近にある「麓」 .....	21
・鹿児島城跡 .....	23
・喜入旧麓 .....	25
・出水麓 .....	27
・入来麓 .....	29
・里麓 .....	31
・手打麓 .....	33
・串木野麓 .....	35
・蒲生麓 .....	37
・知覧麓 .....	39
・加世田麓 .....	41
・垂水麓 .....	43
・志布志麓 .....	45
クイズコーナー .....	47
まとめ .....	49
アクセス情報 .....	50

# 日本遺産って何だろう？

各地域の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産として文化庁が認定し、ストーリーを語る上で欠かせない、魅力ある有形・無形の様々な文化財を総合的に活用し、情報発信を行うことなどにより、地域活性化を図ろうとするものです。



## 鹿児島県の「日本遺産」 薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～



### 薩摩の武士が生きた町 ～武家屋敷群「麓」を歩く～

江戸時代、薩摩藩は領内（沖縄・奄美などをのぞく）を鹿児島城下と100余りの地区に分けて支配していました。100余りに分けられた地区のことを外城（とじょう）といいます。その外城の中心地には、その地域を治める武士たちが住む武家屋敷群がありました。それが「麓（ふもと）」です。

#### 「外城（とじょう）制度」って知っているかな？

「外城制度」は薩摩藩独特のもの。他藩では武家屋敷群はひとつ\*というのが基本だったんだ。薩摩藩ではたくさんの「麓」があったから、鹿児島県にはたくさん武家屋敷群が残っているんだよ。

\*全国には他にも2、3箇所ある藩がありました。



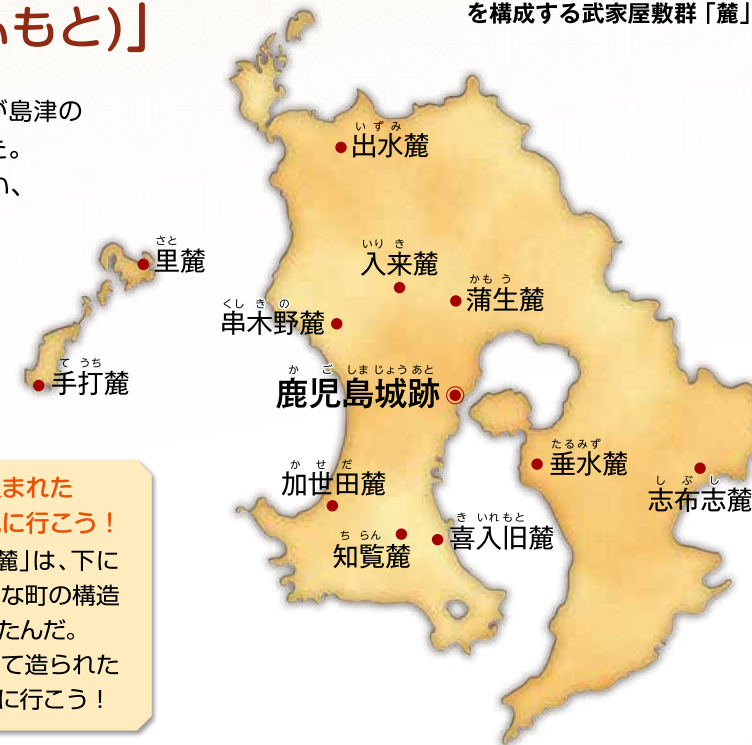
## 鹿児島城跡を囲むように配置された「麓（ふもと）」

現在の鹿児島市にある「黎明館」一帯が島津のお殿様が住んでいた「鹿児島城」でした。「鹿児島城」を「御内（みうち）」とも言い、これを守るのが「外城」でした。このため「麓」という武家屋敷群も鹿児島城を取り囲むように配置されています。



「麓」が生まれた物語を見に行こう！各地の「麓」は、下にあるような町の構造をしていたんだ。どうやって造られたのか調べに行こう！

【日本遺産】  
薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～を構成する武家屋敷群「麓」



#### 「麓」のある場所の特徴を調べてみて！

武家屋敷群は、その地域の防衛拠点となる山城近くに造られました。多くは城の麓部分に造られたので、武家屋敷群のある所を「麓」というようになりました。



# 中世の「山城」ってどんなお城？

みんなが知っている姫路城などの日本のお城と  
シラス台地に出来た「山城」の違いを調べてみよう！

当時にタイムスコープ  
歴史発見! ポイント!

「山城」というお城は、自然の地形を活かして、敵の侵入を防ぐために作られたんだ。鹿児島島はシラス台地の地形を利用して深い堀を持つのが特徴なんだ。



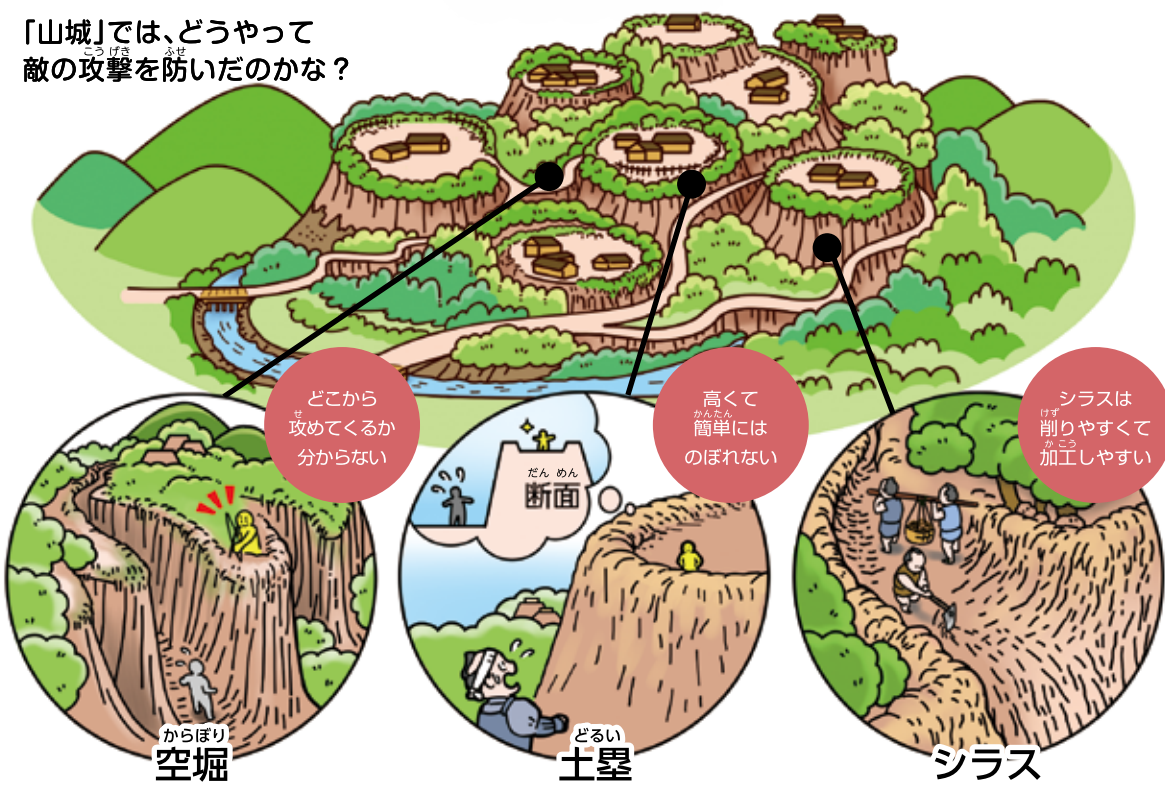
地形を生かした城  
右は知覧に残る山城。たくさんの平坦地が集まっているね！知覧麓についてP39でもっと詳しく調べてみよう！



※囲い線は平坦地

## 歴史マンガ解説

「山城」では、どうやって敵の攻撃を防いだのかな？



国指定史跡 志布志城内城跡模型(鹿児島県歴史・美術センター黎明館展示)



君ならどう攻める？  
あちこちに巡らせた深い谷や登れない崖など、簡単には攻められないような工夫がみられるね！

当時にタイムスコープ  
歴史発見! ポイント!

山城は、遠い昔火山からの噴出物が堆積して数10mから100mを超える厚さとなった「シラス台地」を利用して、主にその端に当たる場所に築かれています。

他県にもあるかな？  
このような特徴を持っている山城と同じような特徴を持つお城が、県内の他の地域や他県にもあるか調べてみよう！



ことば

- 山城: 戦国時代において天守閣や石垣を備えた城が築かれた期間は短く、その大半は周囲の地形を利用した山城でした。
- シラス台地: 九州南部一帯に厚い地層として分布する軽石や火山灰などの堆積物でできた台地。
- 空堀: 山城では、山麓部に自然の川を利用して堀とすることもありますが、山中の人工的な堀は、水のない「空堀」でした。

現地に行ってみよう!



- ①清色城跡(薩摩川内市)
- ②知覧城跡(南九州市)
- ③志布志城跡(志布志市)

曲輪(くるわ)と呼ばれる山城の区画や、切り立った空堀などは実際にみると迫力があります。君たちの身近にある山城跡を見つけてみよう！

【注意!】  
山城は崩れている所や危険な動植物などもあるので見学する際は十分気を付けましょう。

# 戦乱の中で領地を広げた島津氏

当時、鹿児島から九州全域へと勢力を拡大していった島津氏について調べてみよう！

## 当時にタイムスコープ！ 歴史発見！ポイント！

「戦国時代」(15世紀末から16世紀末)には、南九州でも、多くの武将がいて、それぞれの領地を拡大するために、たくさんの戦いがあったんだ。



知っているかな？  
織田信長や、豊臣秀吉などの戦国武将も同じ時期に全国各地で同じような戦いを繰り返し、領地を拡大していたんだよ。



## 歴史マンガ解説

**1** 天正5年(1577) 三州統一を果たした島津氏

**2** 三州統一の勢いのままに九州制覇へと乗りだす

**3** しかしながら九州統一目前で豊臣秀吉率いる大軍が押し寄せ降伏する

**4** 秀吉に降伏したのち南九州だけの支配は認められた

結果

泰平寺

## 登場人物



**島津貴久**  
島津家15代当主。義久・義弘・歳久・家久4人の息子を持つ。天文14年(1545)に一族から「三国守護」の承認を得、天文19年(1550)には内城(現、鹿児島市大竜町)に入った。

## 薩隅日三州沿革古図

1 天文4年(1535)

2 天文19年(1550)

3 天正5年(1577)

4 天正14年(1586)

5 天正15年(1587)

現在の地図と比較してみよう！  
今の鹿児島県や九州の他の県の場所を、当時の地図と比較して、範囲の広さを確かめてみよう！

島津氏の領地

## 当時にタイムスコープ！ 歴史発見！ポイント！

島津氏は九州を統一する手前まで行きましたが、豊臣秀吉率いる大軍に負け、その後は、現在の宮崎県の一部を含む範囲を領地として治めることになりました。



調べてみよう！  
豊臣秀吉の大軍の前に降伏を決断した当主の島津義久は、薩摩川内市にある「泰平寺」で秀吉に会い和睦しました。

## ことば

- 島津家  
鎌倉時代から南九州を統治し続け、江戸時代、琉球王国を支配下におさめ、72万石の領地を所有する外様大名となりました。
- 戦国時代  
日本の歴史上、15世紀末から16世紀末にかけて国内で戦乱が数多く発生した時代を指します。
- 三州統一  
島津貴久の子、義久や義弘ら島津四兄弟の時代に、薩摩・大隅・日向の三州を平定しその全域を支配下におさめました。

## 現地に行ってみよう！



- ① 歴代の島津氏の墓がある福昌寺跡(鹿児島市)
- ②・③ 島津貴久・義久親子の居城のあった内城跡(現大龍小学校)(鹿児島市)

内城は15代当主・島津貴久によって築かれた城で、50年間にわたり島津氏の居城でした。島津家久が鹿児島(鶴丸)城へ居城を移した際に廃城となりました。現在城跡には鹿児島市立大龍小学校があり、校庭に城跡碑が建てられています。

# 薩摩藩の「外城制度」の確立

「一国一城令」で、複数の城を持てなくなった薩摩藩のとした政策を調べてみよう！

当時にタイムスコープ！  
歴史発見！ポイント！

一国一城令実施前には全国に数千もの城がありました。そのほとんどが廃城となり、数百程度まで激減しました。



薩摩藩は家康に警戒されていた!?  
大きな領地に多くの武士を抱えていた薩摩藩は、反逆を恐れた家康から特に警戒されていたんだ。

## 登場人物 徳川家康



秀吉の死後、関ヶ原の合戦に勝ち天下の美権を握ると、将軍として江戸に幕府を開いた。大坂の陣で豊臣氏を滅ぼし、徳川氏政権265年間の基礎を固めた。

## 一国一城令とは？

徳川幕府が、慶長20年(1615)に諸大名に対して命じた、一つの国(藩)に対して城は一つ(大名の居城)のみと定めた法令。  
主として諸大名の軍事力を削減する目的で出されたもので、全国で短期間のうちに多くの城が壊されたといわれます。同年に出された武家諸法度で、徳川幕府による全国統治がさらに強固なものとなりました。

## 歴史マンガ解説

1 徳川家康の「一国一城令」により、全国で多くの城が破棄されることとなった…。

2 薩摩藩も山城が破棄の対象になった…。

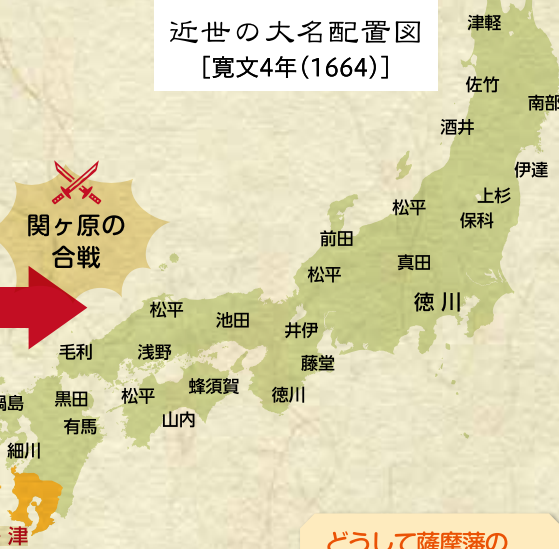
3 薩摩の武士たちは、山上の館をしかたなく取り壊した。

4 麓を中心に地域の役割が充実し、外城制度の整備が進んだ。

## 守護大名配置図 [15世紀末]



## 近世の大名配置図 [寛文4年(1664)]



関ヶ原の合戦

同じ場所にあり続けている

## 関ヶ原の合戦とは？



豊臣秀吉が亡くなった後、その後の権力を巡って日本が大きく2つに分かれ、石田三成が率いる西軍と徳川家康が率いる東軍とで戦いが起こりました。

結果は東軍が勝利し、勝った方の武将は領地が大きく増え、負けた方の武将は領地を減らされました。



どうして薩摩藩の領地は残ったのかな？  
多くの藩が別の場所に移されたのに対して、薩摩藩は巧みな交渉などで同じ場所にあり続けたよ。

## 当時にタイムスコープ！ 歴史発見！ポイント！

薩摩藩は、江戸時代においても古くからの土地を守ることができたため、鎌倉時代から続く武士の文化を維持することができました。

## 「一所懸命」の由来

中世日本では、先祖から受け継いだ土地(場所)を、武士たちが命懸けで守っていました。「一所懸命」という言葉はここから生まれました。



## ？ ことは

- 徳川幕府 慶長8年(1603)、徳川家康が征夷大将軍に任ぜられて、江戸に開いた武家政権。別名を江戸幕府ともいいます。
- 譜代大名 江戸時代、関ヶ原の合戦の前から徳川家の家臣であった大名。全国の要所に配置され、幕府の要職を独占しました。
- 外様大名 関ヶ原の合戦の後に徳川家に仕え始めた大名。譜代に比べて信頼がないという理由で、領地も江戸から遠く離れた場所でした。

## 現地に行ってみよう！



①一宇治城跡(日置市) ②国分城山公園(霧島市) ③城山展望所(鹿児島市)

かつて一国一城令で山上の館が壊された山城には、現在は公園や展望所がつくられ、人々の憩いの場所になっています。みなさんも行ったことのある公園が、もしかすると山城跡かもしれませんね。身近な場所にある山城跡の公園に出かけて、山全体の構造についても調べてみましょう。

# 外城制度ってどんな仕組み？

島津家久が取り組んだ、鹿児島城の整備と藩独自の「外城制度」について調べてみよう！

当時にタイムスコープ！  
歴史発見！ポイント！

鹿児島城は、「外城制度」の中心となる城です。外城は、この鹿児島城を守るために配置されたもので、のちに「郷(ごう)」と呼ばれたんだよ。



昔の鹿児島城の様子



昔と今を比べよう  
昔の写真と今の写真で、同じところはどこにあるかな？  
気づいた人は、P23でもっと詳しく調べてみよう！



現在の鹿児島城跡の様子(鶴丸城跡)

## 登場人物

島津家久



尚古集成館 所蔵

関ヶ原の合戦後、父の島津義弘に代わり徳川家との関係修復につとめ、慶長6年(1601)に鹿児島城の築城に着手。慶長7年(1602)に、南九州の領地を家康から認められる。



昔の「郷」の位置図

昔の鹿児島城周辺の絵地図

敵の侵入を拒む外城  
これは攻めづらい！  
これだけの数の外城(郷)があれば、攻め入ろうとしても簡単には崩せないということがわかるね！



## 歴史マンガ解説

**1** 中世の日本  
島津氏は中世の時代から外城により領地の守りを固めていた

**2** 藩主となった家久は、山城「上山城」と麓の居館からなる城を築いた。それが「鹿児島城(鶴丸城)」

**3** 鹿児島城は各地の領主のまちづくりの手本となった

**4** 麓を中心に地域の役割が充実し、外城制度の整備が進んだ

当時にタイムスコープ！  
歴史発見！ポイント！

「郷」は、現在の市町村などにあたり、1784年の記録では、藩が管理した郷が92か所、家来が所有し治める郷が21か所の合計113か所もありました。

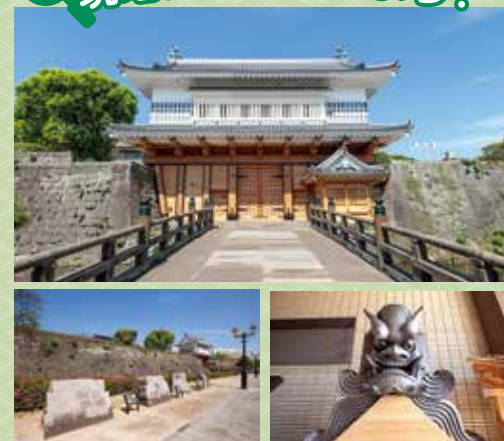


鹿児島城の今は？  
「鹿児島城跡」には、現在黎明館が建っています。外城制度の中心地で、実際の歴史物語にふれてみませんか？

ことば

- 薩摩藩  
薩摩藩の場所は現在の鹿児島県全域と宮崎県の一部です。また、沖縄県もその影響下にありました。
- 郷  
鹿児島城を中心に、そこを守るために築かれた外城が、のちに「郷」と呼ばれ、主に行政区分の単位として用いられました。
- 鹿児島城  
江戸時代の鹿児島城の敷地は、現在の城山と黎明館や県立図書館、市街地の一部を含むエリアでした。

現地に行ってみよう！



現在の鹿児島城跡の様子(鶴丸城跡)

2020年春に完成した日本最大級の武家門、「御楼門(ごろうもん)」がそびえ立つ現在の鹿児島城跡。「外城制度」などの詳しい資料などは、黎明館内の展示物を実際に見に行ってみよう！

詳しくは、HPでチェック！  
鹿児島県歴史・美術センター黎明館ホームページへ



# 藩内各地に整備された「郷」

江戸時代になり、新しい政治のもと発展していった薩摩藩独自の外城制度における「郷」を調べてみよう！

当時にタイムスコープ！  
歴史発見！ポイント！

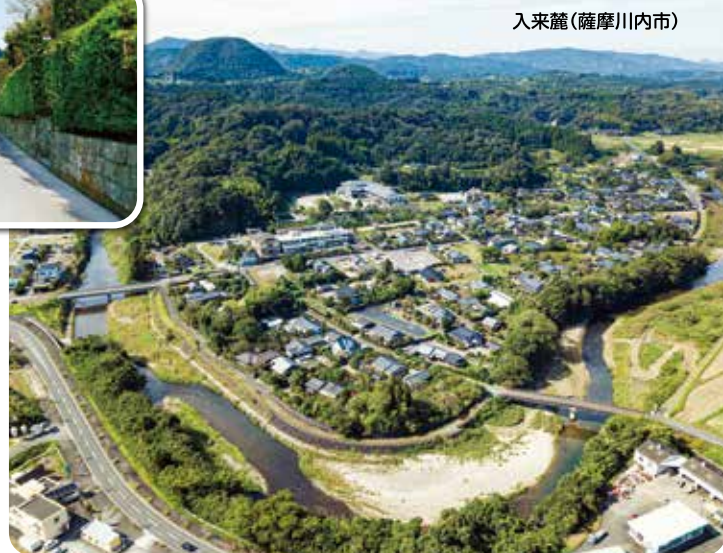
「外城制度」の統治単位である「郷」は、「籠」や「在」、「野町」、「浦町」など、様々な地域によって構成されていました。

「郷」の中の「籠」

現在も見ることができる「籠」を中心とした周辺の地域の様子についても、特徴をあらためて観察してみよう！



知覧籠 (南九州市)



入来籠 (薩摩川内市)



## 歴史マンガ解説

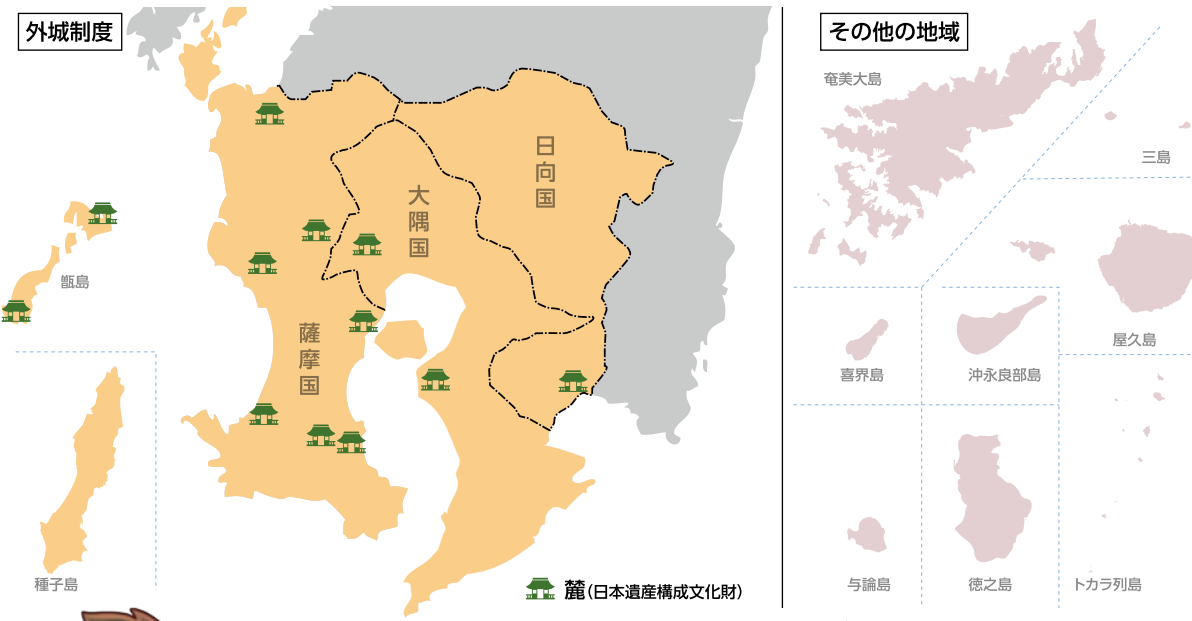
「籠」の様子  
武士たちが暮らす  
武家屋敷群

「在」の様子  
田畑が広がる耕作地

「野町」の様子  
町人が暮らす商業地

「浦町」の様子  
漁業・海運拠点として栄えた港町

## 外城制度があった地域とその他の地域



みんなが住んでいる地域はどうだったのかな？  
同じ薩摩藩でも外城制度とそれ以外の地域があったんだね。

## 代官と島役人



外城制度が無かった地域では、薩摩藩から派遣された代官(藩の役人)と、島役人(島の有力者)によって島の統治が行われていました。

当時にタイムスコープ！  
歴史発見！ポイント！

「籠」の周辺には、農業に適した耕作地や、海に面した場所では漁業で栄えた港町がありました。現在でも籠の周辺でとれる野菜や魚が地域内で消費されています。

昔から変わらない風景  
山や海に近い地域で、当時の人々の暮らしの面影が感じられるような、籠の風景を皆さんも探してみましょう！



## ことば

- 海運拠点  
当時の物流は、海や川を利用して船でも行われました。そのため、その船が着く港は重要な交易のための場所になりました。
- 代官制度  
奄美群島などでは、薩摩藩の直接統治が行われ、島ごとに設置された代官所に、藩の役人が数年おきに派遣されました。
- 島役人  
実際の統治は、数人の藩役人だけではできず、各島の地域の有力者である与人や島役人の協力を得ながら行われました。

## 現地に行ってみよう！



赤尾木城跡 (西之表籠)



薩摩藩最南端の籠集落は種子島にあり、西之表が籠で、島全体が一外城でした。港を見下ろす台地に赤尾木城跡を中心として土族の屋敷が置かれ、海岸沿いの低地に野町が置かれ、商人や職人が居住しました。種子島は鉄砲が伝来した土地だったため、鉄砲職人の鍛冶屋が集まっていた。

# 麓と呼ばれる防衛・交通拠点

一国一城令によって、薩摩藩が考案した防衛・交通拠点「麓」の守りは本当に強かったのかを調べてみよう！

当時にタイムスコープ  
歴史発見! ポイント!

最大113か所もあった郷の中心地である「麓」は、薩摩藩の本城である鹿児島城を取り囲むように配置され、藩全体を守っていました。



知覧麓(南九州市)



君ならどう攻める!?  
万が一に備えて武士が守っていた「外城」。鉄壁の守りの拠点には様々な工夫がこらされていたんだね!



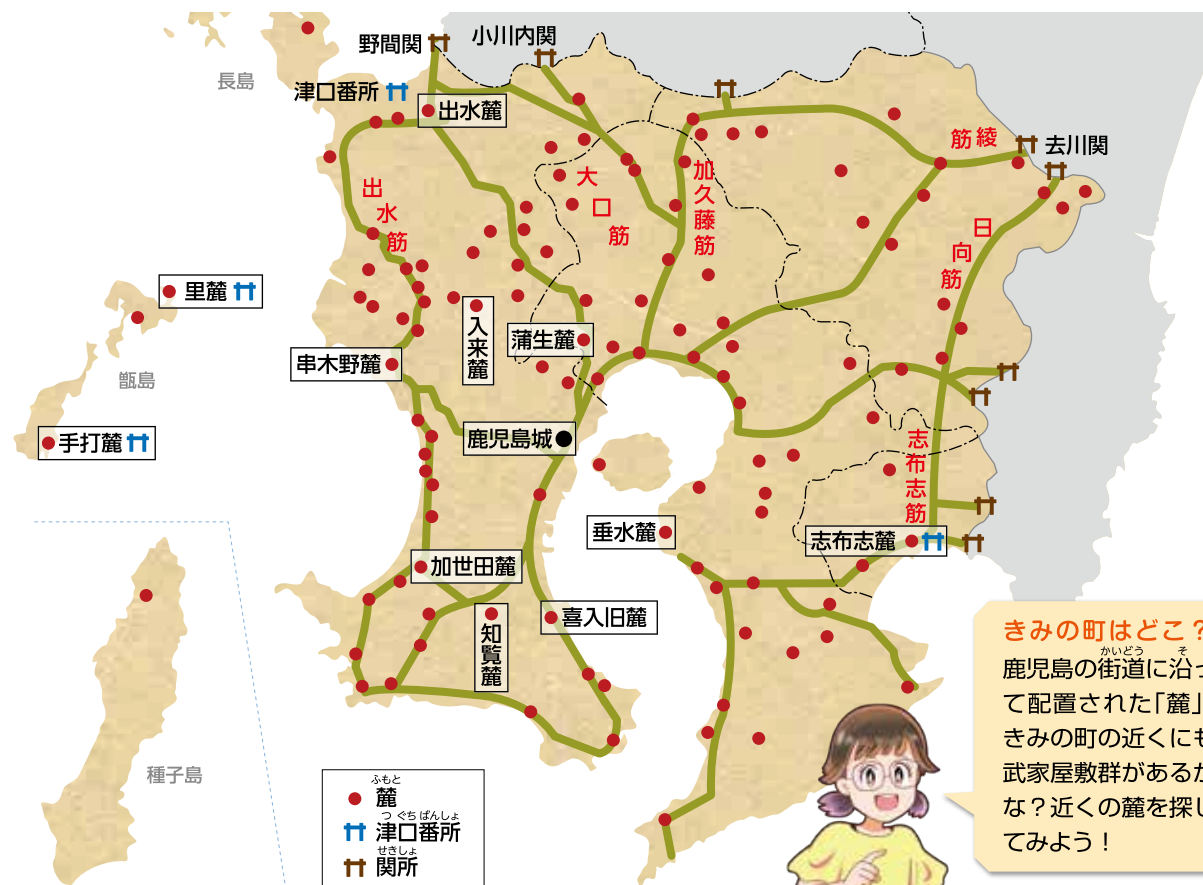
## 歴史マンガ解説

もし敵が攻めてきたらどのように守るのか? シミュレーションしてみよう!



②「見通せない通り」  
敵が攻めにくい仕組み

③「侵入を拒む入り口」  
虎口という見通せない入り口



きみの町はどこ?  
鹿児島島の街道に沿って配置された「麓」。きみの町の近くにも武家屋敷群があるかな? 近くの麓を探してみよう!



当時にタイムスコープ  
歴史発見! ポイント!

「関所」は陸路の要所に、「番所」は海路の要所に設けられ、それぞれ通行人や物品の検査に当たりました。戦争時には防衛の拠点になりました。



外国船も監視した?  
外国船が種子島の沖を通ることから、万が一に備え、通事と呼ばれる通訳を配置していました。

ことば

- 防衛 他国による攻撃に対して自分の国の安全を確保し、守ることを防衛拠点とは、その中でも大事な場所を指します。
- 鎖国 寛永16年(1639)に完成した日本の貿易の体制。キリスト教の普及を恐れた江戸幕府は、一部の国以外は貿易することを禁じました。
- 津口番所 藩政時代に、主に海や川に面した場所につくられ、外国の船や貿易船の積み荷を取り締まる役割を果たしていました。

## 現地に行ってみよう!



①野間関跡(出水市) ②津口番所跡(志布志市) ③津口番所跡(薩摩川内市下甑町手打)

徳川幕府は、藩外への移動を制限していましたが、薩摩藩は、関所において他藩よりも厳重な取り締まりを行っていました。中でも肥後との境にある野間関は、薩摩第一級の関所でした。また、船が主要な交通手段だった当時、海の守りや監視も重要視されたため、交通拠点には「津口番所」と呼ばれる海の関所も設けられていました。

# 「麓」での武士たちの暮らし

外城制度の行政区分である「郷」を維持するための仕事や武芸の鍛錬、農業など充実した武士の暮らしを調べてみよう！

## 当時にタイムスコープ！ 歴史発見！ポイント！

中世から変わらない武士の文化を守り続けてきた薩摩藩の武士たち。当時の武士文化を現代でも様々な場面で見ることができます。

### 想像してみよう！

薩摩藩の武士たちは、古くからの土地を守り、身分の分け隔てなく、農業や商業などの仕事もこなしたんだ。



## 歴史マンガ解説

1 時代は変われど我ら薩摩武士!!

中世の日本 → 江戸時代

薩摩武士の多くは、江戸時代においても中世武士の文化を守っていた

2 武士は臨戦態勢を維持するため「馬術」や「剣術」の鍛錬を欠かさない

あまりの忙しさに、つい愚痴をこぼして、「ぞつまあげ」と「焼酎」で「だれやめ」をする武士であった…

3 半農半士の武士は、農作業や様々な生業に忙しかった

4

## 武芸



高山流騎馬  
約900年の歴史がある高山流騎馬は鎌倉時代に始まり、国家安泰、五穀豊饒、悪疫退散を祈願する年占いです。

## 文化



土踊(加世田)  
竹田神社の夏祭りに毎年奉納される郷土芸能。青年による二才踊と小学生による稚児踊で構成されます。

### みんなの町にも残っているかな？

武士たちの暮らしを伝える行事や伝統文化など、みんなの町の遺産を見つけてみよう！



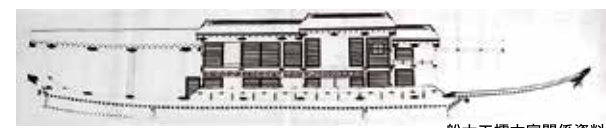
## ものづくり



蒲生和紙  
手漉き和紙の製造は、300年近い歴史があり、島津家が武士に藩の御用紙を製造させたのが起源とされます。



垂水人形  
垂水では、元禄年代頃から作られていたとされ、江戸期には武士の内職として作られるようになりました。



御座船(高江郷)



和紙(伊作郷)

## 当時にタイムスコープ！ 歴史発見！ポイント！

いつでも戦いに臨めるような鍛錬を欠かさなかった薩摩の武士たち。「土踊」や「テイスサ(手戦)」など、戦いの所作を取り入れた祭りや文化が現代まで伝えられています。



武士の暮らしを体験  
薩摩川内市や、出水市などいくつかの麓では、武士たちの暮らしを疑似体験できるのでぜひチャレンジしよう！

- 馬場  
乗馬を行うための場所。それぞれの麓では武家地に馬場があり、そこに暮らす武士が乗馬訓練などを行っていた。
- 示現流  
薩摩藩を中心に伝わった日本の古流剣術の1つ。戦国～江戸時代初期に活躍した島津家臣の剣豪・東郷重位が流祖。
- だれやめ  
鹿児島や宮崎など九州の方言で、焼酎を飲む晩酌のこと。だれ(疲れ)をやめる(とめ)という意味から。「だいやめ」ともいう。

## 文化を体験してみよう！



入来麓に伝わる「テイスサ(手戦)」  
「テイスサ(手戦)」とは、いわゆるチャンバラごっこのようなものですが、棒などの道具は持たず、自分の手(指先から腕の付け根まで)を刀に見立て相手と斬り合います。伝承によるとお盆の夜に地域の子もたちを中心に行われ、夜から明け方まで夜通し遊んでいました。攻める側と守る側でそれぞれ5つの陣地に分かれ、通りに隠れたり、時には川を渡ったりして、相手の陣地に攻め入ります。45年ほど前に行われなくなりましたが、現在地域の人々によって保存に向けた取り組みが始まっています。

# 薩摩武士が関わった明治維新

江戸幕府を倒し、明治維新を押し進めた薩摩藩の特徴について調べてみよう！

### 登場人物

さいごう たかもり **西郷隆盛**



幕末の政治に大きな力をもっていた薩摩藩の中心的人物として活躍し、禁門の変、薩長同盟や戊辰戦争でリーダーシップを発揮しました。日本最後の武士とも称される維新の立役者。



『毛理嶋山官軍大勝利之図』

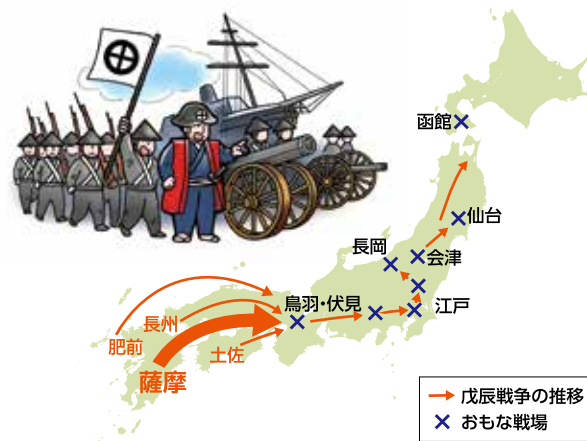
### 当時にタイムスコープ！ 歴史発見！ポイント！

「郷」単位で、日々の武芸や教育を行っていた薩摩藩。薩摩の武士たちが明治維新へとつながる徳川幕府との戦いで大きな原動力となりました。



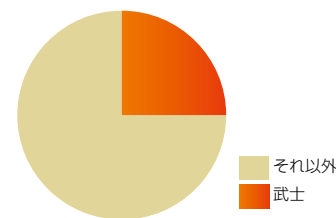
**ここに注目！**  
薩摩藩の強さの理由は、外城制度によって大勢の武士たちが幕末を迎えたところにあるんだね。

圧倒的な薩摩の武士たちの多さが新政府軍の強さにつながった！



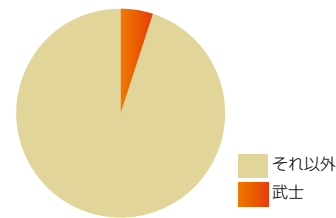
薩摩藩の場合

1/4 が武士



他藩の場合

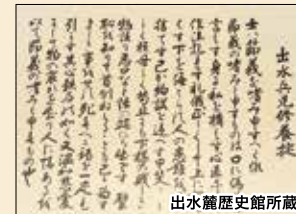
1/20 が武士



各地に残る武士の「教え」も幕末まで受け継がれていた



日新公いろは歌



出水兵児修養掟

武士の多さに着目上のグラフから分かるように、他藩の武士に比べて薩摩藩の武士の数が数倍も多かったんだ。



### 歴史マンガ解説

1 もしもに備え日々の暮らしの中でも「戦」を意識していた薩摩の武士たち

2 戊辰戦争が勃発し新政府軍として駆り出される薩摩の武士たち

3 長州などにくらべ圧倒的に多かった薩摩の武士たち

4 薩摩の武士たちを中心とした新政府軍は、明治維新の原動力となった

### 当時にタイムスコープ！ 歴史発見！ポイント！

旧薩摩藩士が関わった北海道の屯田兵制度も、薩摩の「外城制度」を参考につくられたとされます。「半農半士」の暮らしが、北海道の開拓にも活かされました。

#### 武士のいない時代へ

基本的に藩からの禄(給与)で暮らしていた武士は明治維新後、新たな役割を果たしたんだね。



#### ？ ことば

##### ● 屯田兵の父・永山武四郎

「屯田兵」とは、主に元々は武士だった人たちの仕事として、普段は軍事訓練をしながら北海道開拓に励み、事変が起こると鋤を鉄砲に持ち替え、出撃する任務を背負った人たちのことです。薩摩藩士だった永山武四郎は、屯田兵制度の創設に関わり、本部長、司令官を務め、兵と家族たちから「屯田兵の父」と慕われた人物です。



### 現地に行ってみよう！



維新ふるさと館(鹿児島市)

甲突川河畔にある維新ふるさと館は、幕末から明治維新に活躍した西郷隆盛や大久保利通などの育った地であり、「維新のふるさと」とも言える加治屋町に位置しています。

詳しくは、HPでチェック！

維新ふるさと館ホームページへ



日本遺産

薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～

行ってみよう  
私たちの身近にある「麓」

【日本遺産】

薩摩の武士が生きた町  
～武家屋敷群「麓」を歩く～  
を構成する武家屋敷群「麓」

Map locations and associated photos:

- 出水麓 (P27)
- 垂水麓 (P43)
- 里麓 (P31)
- 志布志麓 (P45)
- 手打麓 (P33)
- 入来麓
- 蒲生麓
- 串木野麓
- 鹿兒島城跡
- 加世田麓
- 垂水麓
- 志布志麓
- 知覧麓
- 喜入旧麓
- 入来麓 (P29)
- 串木野麓 (P35)
- 蒲生麓 (P37)
- 鹿兒島城跡 (P23)
- 加世田麓 (P41)
- 知覧麓 (P39)
- 喜入旧麓 (P25)

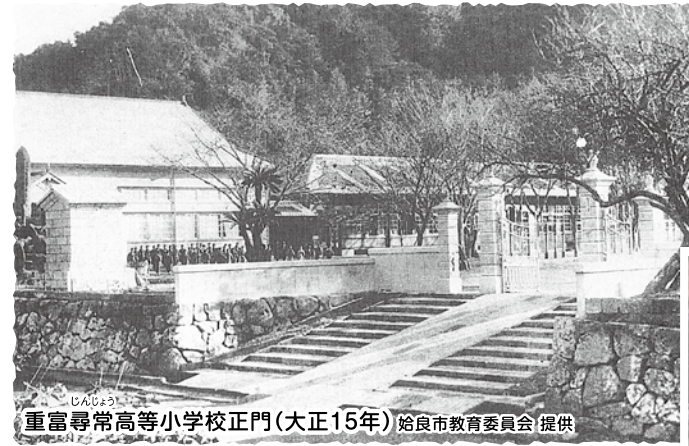
歴史深発見!  
コラム

小学校周辺にもある!?

近くにある「麓」の風景



実は、みんなの小学校がある場所の多くが、  
昔「お仮屋」と呼ばれる「麓」の中心地だったんだよ!



昔のお仮屋跡の様子

武士の時代にお仮屋のあった土地を利用して、  
明治時代以降に多くの学校が建てられました。  
みんなの小学校に残っているお仮屋の面影を  
探してみましょう。



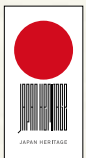
意外と多い! 小学校になっている「お仮屋跡」



ほかにも「麓」の風景が残っている小学校があるよ!

野田小学校・入来小学校・旧日置小学校・永吉小学校・谷山小学校・  
帖佐小学校・垂水小学校・串良小学校・高山小学校・財部小学校・  
出水小学校・大崎小学校・志布志小学校・里小学校 など





鹿児島市

# かごしまじょうあと 鹿児島城跡



## 城山の麓に築かれた 外城制度の要



もともとは、シラス台地特有の地形を生かした上山氏の山城を、関ヶ原の合戦の後、18代当主・島津家久が島津家の居城として麓に館を加えつった城が鹿児島城です。別名本城とも呼ばれ、鹿児島城下町形成および外城制度の中心となっていました。

### 当時にタイムスコープ 歴史発見! ポイント!

**比べてみよう!**  
現在、黎明館がある場所にかつては鹿児島城の館があったんだ。今と昔の様子を比べてみよう!



**ことば**

- 居城** 領主が普段から住む城。または、領主が拠点とする城のことを指します。本城と呼ばれる場合もあります。
- 城下町** 藩政時代、領主の居城を中心として展開した都市。「城下」という表現が広く用いられるようになったのは江戸時代以降です。
- 武家門** 江戸時代初期、大名や大身の武士の屋敷にみられた門で、身分によって格式があり、門の様式も定められていました。

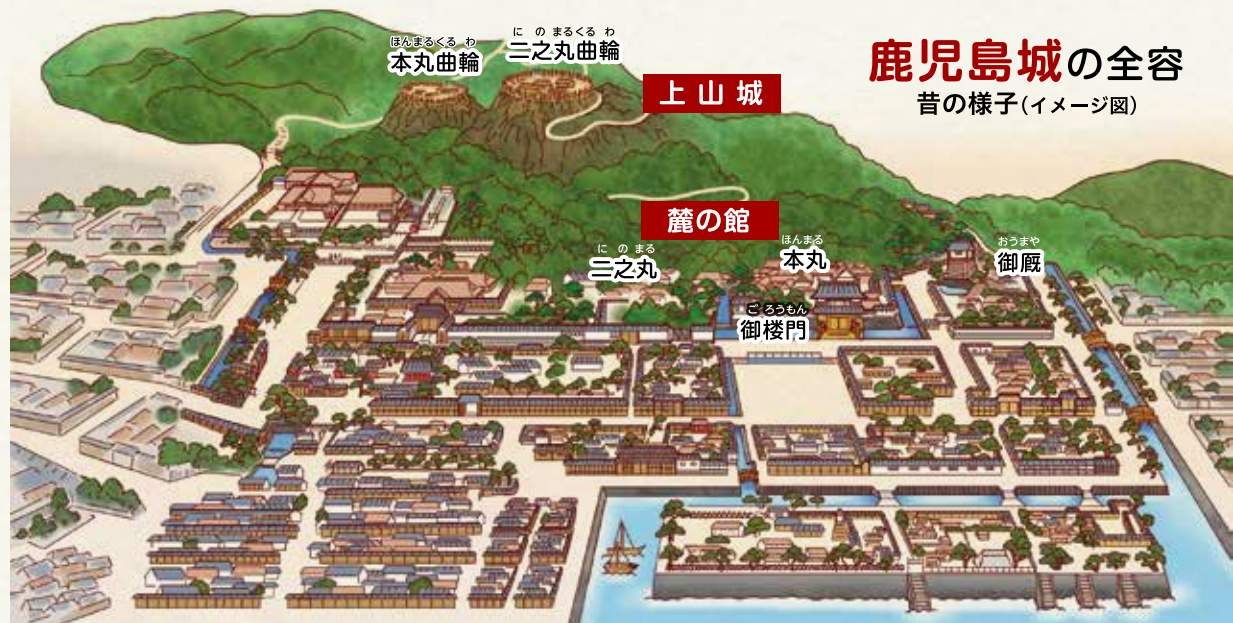


**鹿児島城復元模型**  
鹿児島城は、上山城と麓の館からなり、天守はありませんでした。濠と石垣に囲まれた本丸が模型で再現され、往時の様子を今に伝えています。

**立ち寄りスポット**

鹿児島の歴史や美術・工芸をはじめ世界文化遺産に関する展示・研究が行われており、貴重な文化遺産が18万点も収蔵されています。

**●鹿児島県歴史・美術センター黎明館**  
【住所】鹿児島市城山町7-2  
【営業】9:00~18:00(入館は17:30まで)  
TEL.099-222-5100



## 鹿児島城の全容 昔の様子(イメージ図)



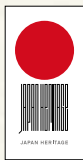
## 復元された御楼門に行ってみよう!



**日本最大級の城門「御楼門」**  
高さは約20m、幅約20m、奥行きは約7mもある日本最大級の武家門。

**見に行ってみよう!**  
御楼門は、実際に通ることができるので、その迫力を自分の目で確かめてみよう!





# 喜 入 旧 麓



## 江戸時代初期のまま 時が止まった麓



江戸時代初期の1650年代、突然の麓の移転で時が止まってしまった“旧”麓。しかし、幕末までの約250年もの間に刻々とその姿を変えていった他の麓に対し、喜入旧麓では1650年代当時の貴重な麓の原風景にふれることができます。

1650年代当時の風景がそのまま残る水路



### 当時にタイムスコープ 歴史発見! ポイント!

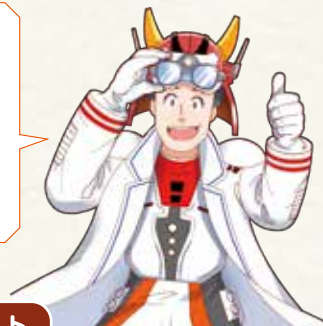
#### 喜入小学校

承応2年(1653)に移転した麓のお仮屋跡に、現在の喜入小学校が建てられました。



#### 江戸時代にタイムスリップ

曲がりくねった街道沿いに残る石垣や、そこに流れる水路など、喜入旧麓で、かつての面影を探してみよう!



#### 立ち寄りスポット

広大な敷地に農産物直売所や農園レストラン、体験用農地、キャンプ場などがあり、農業や食・環境などの体験学習ができる施設です。



●グリーンファーム  
(鹿児島市観光農業公園)  
【住所】鹿児島市喜入一倉町5809番地97  
【営業】(4月~10月)8:30~18:00  
(11月~3月)9:00~17:00  
TEL.099-345-3337



給黎城跡  
島津氏がこの城を手に入れたことを祝って「給黎」から「喜入」となったといわれています。



肝付家歴代墓地  
文禄4年(1595)以降、270年余りにわたって喜入を治めてきた肝付家の墓地。歴代領主の墓には、小松帯刀の父である肝付兼善の墓もあります。



小松帯刀(肝付尚五郎)  
江戸時代の終わりに、薩摩藩の家老として活躍した人物。明治維新で大きな役割を果たした薩摩藩の中心にいて、西郷隆盛や大久保利通らとともに新たな時代を切り開きました。

### 水に恵まれた麓

自然散策も楽しい!  
緑豊かな森林や湧水が豊富な喜入旧麓では、自然散策も楽しめます。散歩しながら歴史にふれよう!

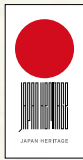
香梅ヶ淵  
喜入の領主やその家来たちが花見に訪れるなど、憩いの場所でした。四季や天気により川の水がエメラルドグリーンやコバルトブルーに見えます。

### 人物紹介

#### 安楽兼道

薩摩藩士・新納一角の子として喜入郷中名村麓(現在の鹿児島市喜入町)に生まれ、安楽家の養子となりました。明治33年(1900)から大正3年(1914)までの間に、4度にわたり警視總監を務めました。





# いずみ ふもと 出水麓



## 県内最大の麓 外城制度の防衛拠点



出水は肥後国(現熊本県)との境にあり、藩の防衛上、特に重要な拠点の一つでした。江戸時代になると、出水城から続く起伏の多い丘陵地を平らに整地し、そこに道路を格子状に掘り込んで計画的に麓がつくられました。

### 出水麓のようす

出水麓は、薩摩藩最大の防衛拠点として整備された麓です。周辺より一段高い立地や道路と屋敷との高低差など、地形に着目すると、麓訪問がより楽しめます。

### 当時にタイムスコープ 歴史発見! ポイント!

**地形にも注目しよう!**  
山城の麓に、きれいに整備された区割りが出水麓の特徴なんだ。イメージしながら麓を歩いてみよう!

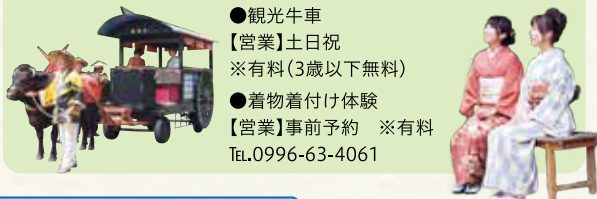


### ことば

- **肥後**  
肥後国(ひごのくに)は、かつて日本の地方行政区分だった令制国の一つ。明治時代の鹿藩置県により現在の熊本県になります。
- **丘陵地**  
なだらかな起伏や小山(丘)の続く地形のことで、地形学では高度や起伏が山より小さく、台地より大きいものを指します。
- **格子(状)**  
ひとつの空間において、等間隔のいくつかの平行線の交わりにより生じる図形のことを、一般に格子と呼びます。

### 体験

東京ドーム9個分ともいわれる広さの出水麓を楽しむには観光牛車がおすすめ。美しい町並みを着物姿で散策できる着物体験も人気があります。



- **観光牛車**  
【営業】土日祝 ※有料(3歳以下無料)
- **着物着付け体験**  
【営業】事前予約 ※有料  
TEL.0996-63-4061



### 藩最大の防衛拠点

山城である、「山城」を背景に広がる出水麓は、その地形を生かした町割りの特徴のひとつです。

**出水麓歴史館で学ぶ**  
ジオラマ模型や映像で、出水麓の歴史を学んでから武家屋敷群を見学しよう!



- **出水麓歴史館**  
【住所】出水市麓町10-39  
【営業】9:00~17:00(入館は16:30まで)  
【定休日】毎月第3水曜日  
TEL.0996-68-1390



**竹添邸**  
武家屋敷群の公開武家屋敷の一つ。大河ドラマ「篤姫」のロケ地としても使用されました。



**税所邸**  
武家屋敷群の公開武家屋敷の一つで、現在の出水麓の武家屋敷の中では最古のものとされます。

### 立ち寄りスポット



**湯川内温泉**  
ゆがうち  
宝暦4年(1754)に発見された後、島津家ゆかりの温泉として利用され、明治以降に市民へ開放された歴史のある温泉です。  
【住所】出水市武本2060  
TEL.0996-62-1535

### 人物紹介

## 山田昌巖



寛永6年(1629)出水郷第3代地頭として着任し、産業の振興にも意を注ぎ、領民に慕われました。武芸に重きを置く出水の気風は盛んになり、いわゆる「出水兵児」と呼ばれる武士集団が形成されました。



# いり き ふもと 入来麓



## 武家屋敷で武士に変身! 本格的なサムライ体験を



かやぶき屋根の  
二ツ屋住居で  
大正期の暮らしを  
再現!

ここをチェック!

竹製の雨どい



### 旧増田家住宅

旧増田家住宅は、大正期の姿に復元された住宅で、「オモテ」と「ナカエ」からなる建築物です。平成26年に国の重要文化財に指定されました。



武士になる!

中世からの町並みが残る武家屋敷群で、本格的な甲冑姿や着物姿の体験など、サムライツーリズムを楽しむことができます。



- サムライ変身体験
- 【営業】当日受付可
- 【料金】(大将クラス)3,850円～
- 着物着付け体験
- 【営業】事前予約 【料金】3,850円～
- Tel.0996-44-5200(入来麓観光案内所)

### 当時にタイムスコープ 歴史発見! ポイント!

入来麓は中世の清色城跡と樋脇川に囲まれた場所に作られた、防御に優れた麓。中世の曲線的な道沿いの町並みと、近世になって築かれた美しく整った通りの、2つの個性的な風景が広がっています。

### ことば

- 中世・近世  
「中世」は、鎌倉時代や室町時代のことを、「近世」は江戸時代のことを言います。
- 重要文化財  
建物・絵画・工芸品・古文書などの文化財のうち、特に重要なものとして国が指定したものを言います。
- 入来院氏  
鎌倉時代中期、宝治元年(1247)に関東の渋谷一族が、薩摩郡一帯の地頭として入部して以来、当地域は渋谷入来院氏の領地でした。



入来麓を空から見た様子  
.....が清色城跡

山城があったんだ!  
入来麓にも山城があったんだね。山のすそ野には、入り組んだ通りがある武家屋敷群が広がっているよ。



堀切(切通し)  
自然の地形を利用して築かれた清色城跡の入口にある堀切(切通し)。簡単に外敵が侵入できないような仕掛けとしても機能していました。



どうやって守るの?  
切り立った崖の上から石などを落として外敵の侵入をふせいでいたんだ。堀切の崖の高さを現地を感じてみよう!



お仮屋馬場の堀(水路)



大きな生垣



かやぶき門(入来院家武家門)  
入来院家の武家門は、かやぶきで作られていて、中世の様式を伝える貴重な文化財となっています。



着物で通りを散策

### 立ち寄りスポット



### 諏訪温泉

人里離れた愛宕山麓にあり、大浴場や宿泊施設も備えた歴史ある温泉宿。

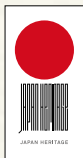
【住所】薩摩川内市入来町浦之名8920  
Tel.0996-44-3472



### 入来温泉湯之山館

島津家・入来院家や大久保利通ゆかりの湯。山あいの静かな温泉には穏やかな時が流れています。

【住所】薩摩川内市入来町副田6179  
Tel.0996-44-2301



# さと 里 麓

薩摩川内市



## 海上交通の要所 甌島の“北”の防衛拠点



中世山城跡のすそにあるお仮屋跡。そこを中心に広がる武家屋敷群。里麓は他の麓と構成は同じながら、海に面しており、海路の往來を監視するという役割が大きく異なります。



**津口番所跡**  
甌島の津口番所では幕府による出入り船舶の取り調べが行われていました。

### 当時にタイムスコープ 歴史発見! ポイント!

**ここにも注目しよう!**  
数少ない島にある麓は、他の麓と異なる景観がおもしろいんだ。海に面した里麓の景観を見に行こう!



ことば

#### ●中世山城 ●海上交通(海路) ●お仮屋

山城は、戦が日常的に起こっていた南北朝時代や戦国時代に多くが築かれ、「中世城郭」とも呼ばれます。

江戸時代の物流は、海運が主流でした。車も鉄道もない時代に、多くの荷物を運ぶために、海上交通は重要な輸送手段でした。

薩摩藩では領土を複数の区画に分け、そこに地頭を配置しました。その地頭が滞在していた館がお仮屋です。

#### 立ち寄りスポット

里港ターミナル内にあり、レンタサイクル(電動アシスト付き自転車)、釣竿の貸し出しなどもおこなっています。



●上甌島観光案内所  
【住所】薩摩川内市里町里1619-13  
【営業】8:30~18:30  
TEL.09969-6-3930

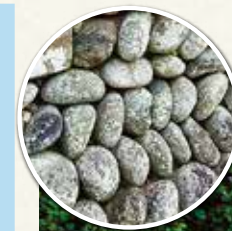
## 亀城跡とすそ野に広がる島ならではの武家屋敷群



**亀城跡** 通称「城山」とも呼ばれ、中世、甌島を統治した小川氏の居城となっていました。



**独特の地形「トンボロ」**  
トンボロは、沿岸流によって運ばれた砂や石が、波の作用によって水面上に現れて出来た地形なんだよ。



**玉石垣の通りと石敢當(せっかんどう)**  
甌島の武家屋敷は浜のすぐそばにあるのが特徴で、屋敷周辺がきれいな玉石垣で囲まれています。また、魔除けの意味をもつ石敢當を見ることができます。

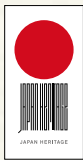
#### 伝統文化



**里の武者踊**  
武士踊は古来、里町と下甌町手打において行われていて、里の武士踊は出陣、手打の武士踊は凱旋の踊りだったといわれています。

**台風に強い玉石垣と生垣**  
夏の台風到来にも耐えられるよう、風よけとして玉石垣に生垣を組み合わせていたんだね。





# て うち ふもと 手 打 麓

手打麓 鹿児島城跡

## 海上交通の要所 甌島の“南”の防衛拠点



## 美しい海岸線に広がる武家屋敷群



2つの「麓」がある甌島  
里と手打の2つの麓が、  
甌島という1つの外城に  
あるのは、他の外城や麓に  
はあまり見られない、ユ  
ニークな特徴なんだよ。



**手打集落** 下甌島の南端に位置する手打集落のほぼ中央の旧道沿いに、約700mにおよぶ旧武家屋敷の町並みが残っています。背後の田んぼは当時、麓の武士たちが耕していたものです。



**津口番所跡**  
江戸時代、甌島は異国船監視の拠点であり、手打漁港近くの津口番所で出入り船舶を取り調べました。

海外との繋がりも!?  
東シナ海に面した甌島の近海は、江戸時代、長崎へ向かう中国船などの外国船も通っていたんだ。



手打麓の近くには、海上交通の監視を行った遠見番所が置かれていました。

### 当時にタイムスコープ 歴史発見! ポイント!

手打麓は手打湾に沿って湾曲した麓で、他の麓と異なり、海を臨む立地が特徴です。他の麓が道路を行き来する人々を監視するのにに対し、甌島の麓が“海路”を行き来する人々を監視対象としていたことを、海の近くに設けられた津口番所跡が物語っています。

### 他の麓との違い

海岸で採れる玉石を用いた石垣や、南国の花や樹木で形成された生垣など、島の麓ならではの景観を見つけに行こう!



**下甌郷土館**  
手打武家屋敷群の通りのほぼ中央には「下甌郷土館」(入館無料)もあり、甌島の歴史・文化を学ぶことができます。

### 立ち寄りスポット

長浜港ターミナル内にあり、レンタサイクル(電動アシスト付き自転車)の貸し出しをおこなっています。薩摩川内市公認ガイド(ふるさと案内人)の手配に加え、宿泊先手配などもおこなっています。



●下甌島観光案内所  
【住所】薩摩川内市下甌町長浜913-4  
【営業】7:00~19:15  
Tel.09969-5-1800

### ことば

#### ●手打湾

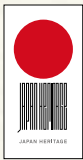
下甌島の最南部にある、約1kmにわたる続砂浜の海岸に面した内海。手打麓はこの海岸線沿いに築かれています。

#### ●甌島(列島)

甌島列島は、上甌島・中甌島・下甌島の3島で構成されており、川内港から西方約30Kmにある島々です。

#### ●麓の生垣

植栽によってつくられた垣根で、屋敷の敷地の境界などに樹木をめぐらせて塀や防風林の役割を持っています。



# くしきのふもと 串木野麓



## 山城を中心に広がる 戦国武将が生きた麓



串木野麓は中世の串木野城を中心に広がっていた麓です。周辺開発が進み、麓の面影は断片的ではありますが、古地図と残された地名で解釈可能です。串木野城は島津家久の居城でした。

### 当時にタイムスコープ 歴史発見! ポイント!

昔を想像してみよう! 島津四兄弟の末弟・島津家久が地頭として治めていた頃、串木野城下に麓集落が形成されたんだよ。



『家久君御上京日記』 天正3年(1575)2月20日、正午頃に居城の串木野を出発。麓に小屋をつくり、そこに老母や妻子を置き、別れの酒宴を開いた。薩摩山付近には菱刈衆や隈城衆の小屋があり、そこで新納右衛門佐殿より饒別に脇刀を預かる。さらに川内川下流の開聞に至ると、川の渡しに平佐の者たちが酒を持ってきてくれた。...

### 人物紹介

## 島津家久

初代藩主、島津家久(P11)とは別の人物で、串木野の城主などを務めました。特に戦上手として知られていました。



『中務大輔家久君御上京日記』 (東京大学史料編纂所蔵)

### 散策プログラム

島津四兄弟の末弟、島津家久とその息子である島津豊久の縁の地「串木野麓」を「いちき串木野の西郷どん」こと「たけどん」によるガイド付きで散策するプログラムです(要予約・申し込み)



●たけどんと往く串木野麓めぐり 【料金】お一人様1,000円(税込) ※団体は応相談 【所要時間】1時間程度 Tel.0996-32-5256

### ●串木野城

別名・亀ヶ城といい、島津家久の子で、関ヶ原の合戦で島津義弘の身代わりで戦死した島津豊久の生誕の地といわれています。

### ●島津四兄弟

戦国時代、薩摩・大隅・日向の三州統一を果たし九州に一大勢力を築いた島津家の義久・義弘・歳久・家久の四兄弟のこと。

### ●串木野氏

建久年間(1190~1198)この地の領主でしたが、興国3年(1342)に島津氏に敗れたのちは、島津氏が領主となりました。



空から見た串木野城跡



だいぢゆうこう びょう 大中公の廟 大中公とは島津貴久のことで、貴久の四男の島津家久が父の御霊を迎えて供養したものです。



みなみかたじんしゃ 南方神社 石段を上ると境内には木々に囲まれた静かな空間が広がります。



お仮屋跡



石製の水道管! 本城の鹿兒島城(鶴丸城)にみられるような石製の水道管がここにも残っているんだね。



### 歴史

#### 金山開発と串木野の歴史



#### 串木野金山

薩摩藩による串木野での金山開発は、1660年頃、芹ヶ野で本格的に始められました。現在でも金の製錬は続いており、今までの採掘量は全国4位です。



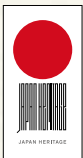
#### 薩摩金山蔵

串木野金山の跡地を利用した『金と焼酎』をテーマにした観光施設。 【住所】いちき串木野市野下13665 Tel.0996-21-2110



焼酎とさつまあげ 串木野は、焼酎やさつまあげ製造が盛んな地域です。武士にも親しまれた昔ながらの味わいが魅力です。





# 蒲生麓



## 日本一の大クスが見守る武家門のまち



当時の武士も仰ぎ見た圧倒的な巨木、日本一の大クスに守られる蒲生麓。天然の堀となる2つの川に挟まれた場所にある市街地に、今も美しく機能的な町割りが残されています。



**蒲生の大クス**  
蒲生八幡神社の境内にそびえ立つ、高さ30m・幹回り24.22mの日本一の巨樹。(国特別天然記念物)

### 当時にタイムスコープ 歴史発見! ポイント!



**蒲生麓の町割りに注目!**  
蒲生八幡神社から南方へ連なる武家屋敷群が特徴だよ。古民家カフェなどでグルメも満喫しよう!

ことは

#### ●蒲生八幡神社 ●お仮屋犬槇 ●町割り

保安4年(1123)に蒲生氏の始祖が創建したとして伝わる由緒ある神社。境内にある日本一の大クスは観光名所になっています。

蒲生お仮屋庭に植えられていた樹で、樹齢400年とされます。犬槇のことは鹿児島では「一ツ葉」とも呼ばれています。

お仮屋を中心に、武家地、町人地、寺社地構成する町をつくる際に、街路を通し、町中を個々の屋敷地に割ること。

### まちあるきガイド

ガイドを希望される場合は観光ガイド申込書(始良市観光協会HPに様式有)にご記入の上、始良市観光協会までFAX(0995-67-6053)またはメール(aira.kanko112@gmail.com)にてお申し込みください。



●始良市観光ボランティアガイド会  
【住所】始良市東餅田2445-7  
【営業】9:00~17:00  
【料金】時間、動員人数により変動  
Tel.0995-67-6052



麓は、初め蒲生城の山すそに作られ、後に城の前を流れる2つの河川にはさまれた現在地に移されました。

### 当時の人々の暮らしが分かる石畳の道



**掛橋坂**  
江戸時代、蘭牟田・祈答院方面と蒲生を結ぶ地方街道として利用された坂。昔の風情を感じられます。



**武家門を見つけよう!**  
蒲生麓には、武家門がたくさん残っています。きみはいくつ見つけられるかな?



### 蒲生城跡(城山公園)

#### 野町ってなに?

野町は麓の近くにあつて、生活物資の製造販売、サービス業(質屋・宿屋・商店など)が集まった場所だったんだ。



### 伝統文化



#### 蒲生和紙作り

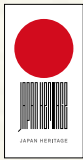
島津家の家老職が武士に藩の御用紙を製造させたのが始まりといわれています。

### 伝統芸能



#### 太鼓踊り

約400年もの歴史をもつ蒲生麓で受け継がれてきた伝統芸能。



# ちらんふもと 知覧麓



## 美しい7つの庭園群と 武家門の通りを散策

旧街道沿いの両側に石垣、生垣が整然と続き、その間に武家門を持つ武家屋敷が並ぶ、薩摩の典型的な武家屋敷群の形を表しています。武家屋敷の武家門をくぐった正面には防衛のための屏風岩などの目隠しがあります。

都や琉球・中国との交流や 雅な庭園文化を今に伝える



豊玉姫神社の水車からくり



### 当時にタイムスコープ 歴史発見! ポイント!



**水車動力を活用した製鉄**  
薩摩の水車ふいごを使った独特な製鉄の技術は、「水車からくり」の技術につながったとされるんだ。

- 屏風岩
- 水車からくり
- 借景庭園

屋敷の入り口に立つ大岩で、主に外敵の侵入を拒み、中の屋敷への攻撃を防ぐために、知覧武家屋敷の多くに設置されました。

知覧の水車からくりは、垂直回転する水車の動力を、ベルトなどで備え付けた人形で伝え、動きをつける、南九州の伝統文化。

庭園の外にある山や樹林などの風景を、庭園内の風景に取り込むことで、庭園の内と外の景色に広がりを持たせる造園手法。

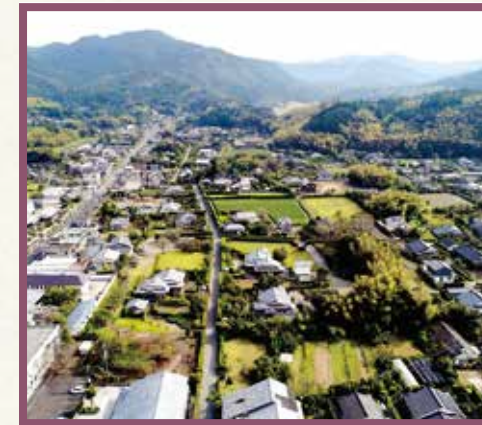
### まちあるきガイド

歴史や伝統、文化など、地元ネタを織り交ぜながら楽しく案内します。ガイドさんとのんびり散策しませんか? 申込は1週間前までの事前予約制です。



●南九州市ボランティアガイド  
【住所】鹿児島県南九州市知覧町郡6198-4  
【営業】9:00~17:00  
【料金】ガイドは無料(事前予約)  
※ただし、各施設入館料別途  
Tel.0993-58-7577

## 火山地形を活用した南九州特有の中世城郭



### 知覧城跡

知覧城は武家屋敷群から南へ約1km、シラス台地の崖を最大限に利用し、その規模・まとまり・残りの良さで南九州を代表する山城です。

### 見学できる山城

城内にはL字状に曲った出入り口や土塁、やぐら台、堀切など防衛施設が残り、見学もできるんだ。



T字路の正面にある魔物を防ぐために立てられた石。



## 庭園文化を伝える庭園



### 1 平山克己邸庭園

母ヶ岳の優雅な姿を取り入れた借景庭園



### 2 西郷恵一郎邸庭園

鶴亀の庭園と呼ばれ、石組と生垣が美しい庭園



### 3 森重堅邸庭園

知覧武家屋敷群の中で唯一の池のある庭園



### 知覧型ニツ家民家(旧高城邸)

知覧では、棟をつなぐ形状がL字型と独特で、知覧型ニツ家民家と呼ばれています。

知覧の歴史まち歩きのに、抹茶や両棒餅はいかが?

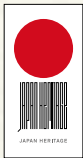


## 中国や琉球との交易



ミュージアム知覧には、知覧麓の武家屋敷から寄託・寄贈された近世・近代の琉球漆器が多数展示・保管されています。琉球との関係が深かったことを示しています。

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
「日本遺産」構成文化財  
クイズコーナー  
アクセス情報・一覧



# か せ だ ふもと 加世田麓



鹿児島県  
加世田麓

## 水路のある麓で 歴史散歩を楽しむ



別府城跡と新城跡の2つの山城に挟まれた曲線的な旧街道沿いの細長い平地を中心に広がっており、防衛上有利な地形にある麓です。用水路や石橋などは加世田麓最大の特徴です。

### 当時にタイムスコープ 歴史発見! ポイント!



**レトロな建物にも注目!**  
古い建物をいかして、レトロなカフェなどもある加世田麓。レンタサイクルでめぐるのもおすすめです!

#### 別府城跡 ● (益山)用水路 ● いろは歌

かつては、福寿城(本丸)、尼ヶ城(二の丸)、中之城(三の丸)からなる、川や湿地に囲まれた難攻不落の要塞でした。

明和5年(1768)に藩の事業として完成。幅2m、高さ1.7mの水路を加世田川から益山まで約5km導き、水田を潤しました。

島津忠良が詠んだ和歌集。いろは47文字で始まる47首の和歌に道徳・宗教を織り交ぜたもの。江戸時代に藩内に広まりました。



**歴史まち歩き(レンタサイクル)**  
南さつま市のレンタサイクルを利用した歴史散策もおすすめ。吹上浜海浜公園から加世田麓を周遊するサイクリングコースも用意されています。

### まちあるきガイド

加世田麓や日新公ゆかりの竹田神社などを楽しく案内します。



●加世田いにしへガイド  
【住所】南さつま市加世田川畑2770-16  
【営業】9:00~17:00  
【料金】10人まで1,000円  
20人まで1,500円  
20人以上2,000円  
Tel.090-4512-6325(事務局 田端さん)



**ココが見どころ!**  
加世田郷土資料館では、加世田麓にゆかりの深い島津忠良(日新公)や土踊などについて学べるよ。



## 郷中教育のもとになった島津忠良(日新公)のいろは歌



**竹田神社** 「いろは歌」を作った島津忠良を祀る神社で、土踊(稚児踊・二才踊)は境内で行われます。

**人物紹介**

しま づ ただ よし  
**島津忠良**  
(日新公)

明応元年(1492)に伊作で生まれ、天文9年(1540)加世田に移ります。のちに藩独自の郷中教育のもととなる「いろは歌」を残しました。

尚古集成館 所蔵



**いろは歌の歌碑** 47首の石碑があります。  
いにしへの道を聞かなくても唱へてもわが行ひにせずばかひなし



### 伝統文化 土踊(稚児踊・二才踊)

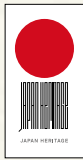


島津忠良が出陣の前に部下を集めて踊らせたのが始まりと伝えられています。二才踊と稚児踊からなり7月23日、加世田麓近くの竹田神社六月灯(夏祭り)で踊られます。

### 立ち寄りスポット 加世田郷土資料館



島津忠良(日新公)関連の資料や、郷土の歴史・民俗をわかりやすく紹介している施設。  
【住所】南さつま市加世田川畑2650-1  
【営業】9:00~17:00  
【定休日】火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)、祝日、館内整理期間  
Tel.0993-53-2111(内線2835)



# たる みず ふもと 垂水麓



往時の町割りを残す  
島津一門家の麓

## 当時にタイムスコープ 歴史発見! ポイント!

垂水麓は日本遺産の11麓の中で唯一、島津一門家(垂水島津家)による格式高い麓です。現在垂水小学校となっている林之城跡を中心に、広大な範囲で整然とした格子状の区画が広がっています。

### 今と昔を比べてみよう!

現在の垂水小学校の場所にはかつてお仮屋がありました。



### ことば

#### ● 島津一門家

島津本家に次ぐ家柄である4つの島津の分家(重富家、加治木家、垂水家、今和泉家)のこと。

#### ● 垂水島津家

江戸時代に垂水を治めた島津の分家。江戸時代半ばに学問所「文行館」を建て、学問や文化に関する事業が知られています。

#### ● 殿加神社

垂水の領主、垂水島津家初代忠将を祀った神社。麓の武士たちの信仰を集めました。

## まちあるきガイド

垂水市の魅力ある文化財、歴史の紹介、観光名所、食事処など、ご希望に応じてコースを設定いたします。希望日の1か月前までにお電話にてお問い合わせください。



### ● 垂水市文化財ガイド

【住所】垂水市田神2750-1(垂水市文化会館内)  
【営業】平日9:00~17:00  
【料金】お問い合わせください。  
Tel.0994-32-7551(垂水市文化会館)



現在の垂水小学校

【出典】垂水町割地図 垂水市史(上)



当時の町割りが残っているよ!  
現代でいうニュータウンのように整備された麓の町割りは、今なお当時の面影を色濃く残しています。



殿加神社

開殿加神社

垂水市役所

垂水小学校

垂水高校

林之城跡

お長屋

垂水島津家墓所(心翁寺跡)

開八坂神社

垂水市立図書館

垂水中央中学校

奥家武家門

宮迫家武家門



林之城跡

垂水麓の中心となった林之城(お仮屋)跡地で、現在は垂水小学校となっています。



垂水島津家墓所(心翁寺跡)

垂水を所領していた垂水島津家の墓所で、歴代の領主の墓が並んでいます。

## 伝統文化

### 垂水人形

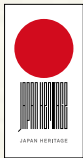


粘土を型枠に入れて形を作り、乾燥させた後に素焼きし、さらに胡粉(顔料)を塗り色付けした素朴な人形。江戸期には、武士の内職として作られました。

### 垂水麓に学問所があったんだよ!

垂水島津家10代貴澄は、安永5年(1776)垂水に学問所「文行館」を設立しました。貴澄は、学校の設備を整え、日本各地から学者を招き、学業振興を図りました。文行館は明治時代まで続き、多くの人材を育成しました。





# 志布志麓



## 広大な山城の麓で 交易で栄えた港町



志布志麓は高鍋藩との境にあり、藩の防衛上、特に重要な拠点の一つです。いくつもの高台からなる志布志城跡に挟まれた狭い谷筋に沿って線状に築かれた独特の立地を持ちます。

### 当時にタイムスコープ 歴史発見! ポイント!

**海運交易で栄えた港町**  
太平洋に面した海の玄関口として、海上交易で栄えた港町は「志布志千軒」とも呼ばれたんだよ。



### 大慈寺

大慈寺は、暦応3年(1340)に開かれた古い歴史のある寺院です。門前の仁王像のほか、後柏原天皇の手紙、中国宋の国で作られた大般若経などは、県の文化財指定を受けています。

### まちあるきガイド

地元観光ガイドが心をこめてまちあるきのご案内をいたします。ガイドのご予約は1週間前までに電話やFAXでお申込みください。志布志城跡案内の場合、山歩き出来る服装をお願いします。



●志布志市観光ガイド  
【住所】志布志市志布志町志布志2-28-11  
【営業】9時~17時(年末年始を除く毎日)  
【料金】1人200円(お客様の傷害保険料等代)  
Tel.099-472-2224

## 4つの山城に囲まれた武家屋敷群



山城と麓が一体に!  
志布志城は、内城、松尾城、高城、新城の4つの山城で構成され、その麓に武家屋敷群があります。



### 津口番所跡を見に行こう

江戸時代には、前川河口に船着場があり、番所では廻船・貿易船の積荷を取り締まっていたんだ。



### 伝統文化

#### お釈迦まつり



仏教を開いたお釈迦様の誕生を祝う、志布志地区で江戸時代から行われている伝統行事です。現在は4月29日の祝日に本祭が行われ、花嫁を乗せたシャンシャン馬が有名です。当日は多くの観光客にぎわいます。

### 立ち寄りスポット



#### 志布志市埋蔵文化財センター

国の史跡である「志布志城跡」のうち、中心的山城である「内城」を実物の200分の1のスケールで復元。  
【住所】志布志市志布志町安楽41-6  
Tel.099-472-0140

「日本遺産」構成文化財

クイズコーナー

アクセス情報

きみは何問解けるかな？

# 歴史深発見！ タイムスコープクイズ



ここまでの学習で歴史に関する知識を蓄えたみんなに最後の出題です。全問正解して、きみも“歴史博士”を目指そう！



こたえ

Q.1	Q.2	Q.3	Q.4
Q.5	Q.6	Q.7	Q.8

Q.1

鹿児島県内各地にあって、防衛の拠点となった「山城」は、どのような場所に作られたでしょうか？



- A 海岸の近く B 平地や平野 C シラス台地

Q.2

鹿児島城を囲むように各地に配置され、その地域を治める武士が住んでいた武家屋敷群がある場所の名前は？



- A 麓(ふもと) B 郡(こおり) C 宅(みやけ)

Q.3

通行人に対して取り締まりを行っていた関所の中で、肥後との境に配置した薩摩藩第一級の関所は？



- A 野間関 B 去川関 C 津口番所

Q.4

入来籠に伝わる戦いの所作を取り入れた遊びとは？



- A アシッサ B クビッサ C テイッサ

Q.5

薩摩藩の「外城制度」を参考につくられたとされる、北海道の開拓や警備などに用いられた制度とは？



- A 屯田兵制度 B 近衛兵制度 C 上等兵制度

Q.6

「郷」を治める地頭や領主が滞在した、地域の中心となる館の名前は？



- A お飯屋 B お飯面 C お長屋

Q.7

薩摩藩最大の麓があった場所は？



- A 出水市 B 鹿屋市 C 指宿市

Q.8

里麓や知覧麓などにも残る、魔除けのための石の名前は？



- A 石垣 B 山川石 C 石敢當

# 歴史深発見! タイムスコープ まとめ



今、みんなが暮らしている身近な場所にも、かつて武士たちが暮らした歴史物語が残っていることに気づくことができたかな? 次は、みんなが自分の目で実際に確かめる「新たな歴史の旅」に出発してみよう!

小学校が「お仮屋跡」だったり、昔の町割りが残ったりしているなど、身近な場所に歴史物語が隠れていることに気づきました。次は私たちが新しい物語を探せるように、もっと調べてみたくなりました!



## 〈P47-48のクイズの答え〉

- Q.1** C.シラス台地  
詳しくはP5・6へ
- Q.2** A.麓(ふもと)  
詳しくはP15・16へ
- Q.3** A.野間関  
詳しくはP16へ
- Q.4** C.テイッサ  
詳しくはP18へ
- Q.5** A.屯田兵制度  
詳しくはP20へ
- Q.6** A.お仮屋  
詳しくはP22へ
- Q.7** A.出水市  
詳しくはP27へ
- Q.8** C.石敢當  
詳しくはP40へ

## 写真・資料提供

【P7】島津貞久肖像画: 尚古集成館 / 【P10】関ヶ原合戦図屏風: 関ヶ原町歴史民俗学習館 / 【P11】島津家久肖像画: 尚古集成館 / 【P11】明治初年の鶴丸城写真: 鹿児島県立図書館 / 【P12】江戸時代における薩摩藩の外城配置: 鹿児島県 歴史・美術センター 黎明館 / 【P12】薩摩御城下絵図: 鹿児島県立図書館 / 【P14】南島雑話: 奄美市立奄美博物館 / 【P14】赤尾木城跡・月窓亭・種子欒作り写真: 種子島開発総合センター鉄砲館 / 【P17】示現流の様子: 薩摩川内市教育委員会文化課 / 【P18】御座船: 薩摩川内市川内歴史資料館 / 【P18】テイッサ(手戦)写真: 薩摩川内市教育委員会文化課 / 【P19】戊辰戦争「鳥羽伏見の戦い」の錦絵「毛理嶋山官軍大勝利之図(部分)」: 萩博物館 / 【P19】西郷隆盛肖像画: 国立国会図書館 / 【P20】出水兵児修養院: 出水麓歴史館 / 【P20】永山武四郎像写真: 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 / 【P20】屯田兵のジオラマ写真: 維新ふるさと館 / 【P24】鹿児島城下絵図屏風: 鹿児島県 歴史・美術センター 黎明館 / 【P26】小松帯刀肖像画: 国立国会図書館 / 【P27】出水麓航空写真: 出水市 / 【P28】山田昌巖の手紙: 出水市 / 【P31】上甕島観光案内所写真: 薩摩川内市教育委員会文化課 / 【P33】下甕郷土館写真: 手打地区コミュニティ協議会 / 【P33】下甕観光案内所: 薩摩川内市教育委員会文化課 / 【P34】新田八幡写真: 薩摩川内市教育委員会文化課 / 【P35】中務大輔家久公御上京日記: 東京大学史料編纂所 / 【P37】始良市観光ボランティアガイド紹介写真: 始良市商工観光課 / 【P38】蒲生城古図: 始良市教育委員会 / 【P39】南九州市ボランティアガイド紹介写真: 南九州市観光協会 / 【P39】水車からくり写真: ミュージアム知覧 / 【P40】知覧麓航空写真: ミュージアム知覧 / 【P40】中国や琉球との交易の品々: ミュージアム知覧 / 【P41】加世田麓レンタサイクル紹介写真: 南さつま市教育委員会生涯学習課 / 【P41】加世田いにしへガイド紹介写真: 南さつま市教育委員会生涯学習課 / 【P42】島津忠良肖像画: 尚古集成館 / 【P43】垂水市文化財インストラクターの会紹介写真: 垂水市教育委員会社会教育課 / 【P45】志布志市観光ガイド紹介写真: 志布志市観光特産品協会 / 【P46】志布志麓と山城の航空写真: 志布志市教育委員会 / 【P46】志布志市埋文センター展示・山城のジオラマ写真: 志布志市教育委員会

## 歴史“深”発見! タイムスコープ 編集委員会

松尾 千歳  
(尚古集成館 館長)

東川 隆太郎  
(NPO法人 まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会 代表理事)

吉元 輝幸  
(鹿児島市立西谷山小学校 教諭)

※順不同敬称略

## 発行元

日本遺産「薩摩の武士が生活した町」  
魅力発信推進協議会事務局  
(鹿児島県教育庁文化財課内)  
鹿児島市鴨池新町 10-1 TEL.099-286-5357

〈企画・編集・印刷〉  
株式会社トライ社  
鹿児島市南林寺町 12-6 TEL.099-226-0815

初版: 2021.3

# 日本遺産に行ってみよう!



## アクセスマップ

### 各麓近くの主要拠点からのアクセス

※詳しいアクセスについては、各麓ページの間合せ先までお問い合わせください。

- |       |                                  |     |                                   |      |                                     |
|-------|----------------------------------|-----|-----------------------------------|------|-------------------------------------|
| 鹿児島城跡 | JR鹿児島中央駅から<br>⇒国道10号経由<br>車で約10分 | 入来麓 | JR川内駅から<br>⇒県道42号経由<br>車で約25分     | 串木野麓 | JR串木野駅から<br>⇒県道39号経由<br>車で約5分       |
| 喜入旧麓  | JR喜入駅から<br>⇒南方神社方面へ<br>車で約5分     | 里麓  | 川内港から高速船で<br>⇒上甕島・里港下船<br>徒歩で約10分 | 蒲生麓  | 始良ICから<br>⇒県道57号⇒県道25号経由<br>車で約12分  |
| 知覧麓   | 南九州市役所から<br>⇒県道232号経由<br>徒歩で約3分  | 手打麓 | 川内港から高速船で<br>⇒下甕島・長浜港下船<br>車で約20分 | 垂水麓  | 垂水フェリー・垂水港から<br>⇒国道220号経由<br>車で約10分 |
| 加世田麓  | 南さつま市役所から<br>⇒国道270号経由<br>徒歩で約5分 | 出水麓 | JR出水駅から<br>⇒県道374号経由<br>車で約6分     | 志布志麓 | 志布志港から<br>⇒県道499号経由<br>車で約10分       |

きみはいくつ周れたかな?  
「麓」でスタンプをGETしよう!



かごしまじょうあと  
鹿児島城跡

きいれもとふもと  
喜入旧麓

いずみふもと  
出水麓

いりきふもと  
入来麓

さとふもと  
里麓

てうちふもと  
手打麓

くしきのふもと  
串木野麓

かもうふもと  
蒲生麓

ちらんふもと  
知覧麓

かせだふもと  
加世田麓

たるみずふもと  
垂水麓

しほしふもと  
志布志麓

学校名	年	組
名前		

【問い合わせ先】

日本遺産「薩摩の武士が生きた町」魅力発信推進協議会事務局  
(鹿児島県教育庁文化財課内)

鹿児島市鴨池新町10-1 TEL.099-286-5357

公式ホームページ  
<https://kagoshima-fumoto.jp/>

